

地域連携 相談室 からの お知らせ



あけましておめでとうございます。

地域連携相談室では、医療・介護・福祉の総合相談窓口として、専任の社会福祉士5名が従事しております。患者さん、ご家族から安心してご相談いただけるよう、誠実で心のこもった支援を実践して参ります。

いつでもお気軽に正面玄関横の地域連携相談室にお声かけください。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

地域連携相談室 TEL/0256-88-0022(直通)



《新型コロナウイルスワクチンの3回目予防接種について》

当院では2月から65歳以上の方の接種開始を予定しております。

予約開始日が決まり次第、受付やホームページにて告知いたします。

※上記予定が変更になる場合もございます。詳細はホームページにてご確認ください。

- モデルナ社製のワクチンとなります。
- 「接種券がお手元にある方」が予約可能となります。
- 18～64歳の方は3月下旬以降になる見込みです。



医療法人 美郷会

西蒲中央病院

- 認知症対応型通所介護「デイサービスセンターみさと」
TEL:0256-88-5521 FAX:0256-88-5531
- 通所リハビリテーション
TEL:0256-88-0024(直通)
- 居宅介護支援事業所「ケアプランセンターチューリップ」
TEL:0256-88-0180(直通) FAX:0256-88-0181
- 訪問看護ステーション ●訪問リハビリテーション
TEL:0256-88-0171(直通) FAX:0256-88-0172
- 新潟市在宅医療・介護連携ステーション西蒲
TEL:0256-88-0022(直通) FAX:0256-88-0033
- 西蒲中央病院みさと訪問看護ステーション
TEL:025-211-2116(直通) FAX:025-211-2126

住宅型有料老人ホーム ころはす西蒲

- 短期入所生活介護事業所「ショートステイころはす西蒲」
- 通所介護事業所「デイサービスセンターころはす西蒲」
- 居宅介護支援事業所「ころはす西蒲」
- 訪問介護事業所「ころはす西蒲」
TEL:0256-88-3113 FAX:0256-88-3115

ころはす榎尾

- ショートステイ「ころはす榎尾」
TEL:025-211-8325 FAX:025-211-8326

ころはす亀貝

- ショートステイ「ころはす亀貝」
TEL:025-260-0261 FAX:025-260-0268
- デイサービスセンター「ころはす亀貝」
TEL:025-260-0255 FAX:025-260-0256

住宅型有料老人ホーム ころはす小針

- 「ころはすクリニック」
- 通所介護事業所「デイサービスセンターころはす小針」
- 居宅介護支援事業所「ころはす小針」
- 訪問介護事業所「ころはす小針」
TEL:025-234-3800 FAX:025-234-3810

ころはす五十嵐

- ショートステイ「ころはす五十嵐」
TEL:025-201-6363 FAX:025-201-6360

ころはす小新

- ショートステイ「ころはす小新」
TEL:025-234-4661 FAX:025-234-4662(共通)
- 居宅介護支援事業所「ころはす小新」
TEL:025-234-4662 FAX:025-234-4666(共通)

社会福祉法人 友愛会

グループホーム ゆうあい

- 認知症対応型 共同生活援助事業所
TEL:025-268-6840 FAX:025-268-6841

グループホーム ひまわりの家

- 認知症対応型 共同生活援助事業所
TEL:025-272-2701 FAX:025-272-2710

編集後記

[みさと編集委員会 福島]

新年明けましておめでとうございます。心身ともに元気に新年を迎えられましたでしょうか？昨年と厳しい社会情勢ではありましたが、そんな中でもオリンピック・パラリンピックで元気をもらった思いがあります。広報誌「みさと」も皆様に役に立つ、そして元気が出るような情報をお届けできるよう今年も励んで参ります。

NISHIKAN CHUO HOSPITAL 医療法人 美郷会
西蒲中央病院

発行責任者：院長 松田 博人
〒959-0423 新潟県新潟市西蒲区旗屋731番地
TEL/0256-88-5521(代)
FAX/0256-88-5531

http://www.misatokai.or.jp/

西蒲中央病院

検索

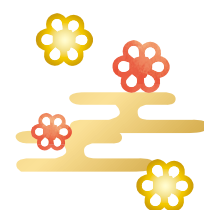


みさと

M i s a t o

— 美郷会理念 —

人と地域にやさしいオアシスを目指します



2022



今回の表紙/『今年も笑ガオーで過ごせますように』

通所リハビリテーションの利用者様と職員の作品

- 年頭のご挨拶
- 知ったく情報 大腸がん検診について
- イルミネーションで笑顔と癒し
- 地域連携相談室からのお知らせ



NISHIKAN CHUO HOSPITAL 医療法人 美郷会
西蒲中央病院

Vol. 66
2022年1月10日
発行



謹賀新年

令和4年

年頭のご挨拶



理事長
江部 和人

新年明けましておめでとうございます。
皆様には良い年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2022年は、十二支の中で、36年に一度訪れる五黄の寅年になり、特徴として「決断力と才知」があるとされ、さらには最強の金運の年でもあるとも云われています。

さて、新型コロナウイルス感染症による、世界的蔓延により、東京2020オリンピック・パラリンピックが約1年延期して開催されました。

東京での開催は57年ぶりとなる、世界が一堂に会したスポーツの祭典でありました。各種競技のアスリート達が活躍し、見る者に感動を与え、かつてないほどの団結と連帯感を示してくれました。

新型コロナウイルス感染も第5波から激減し、かつての生活に戻る期待をかもし出しております。しかし、今後も当面は変異株ウイルスとの戦いが続くものと考えます。

今年の4月には、診療報酬改定が予定されております。現在、厚労省と関係機関に於いて、新型コロナウイルス感染症への対応、医療従事者の働き方改革等、審議中ではありますが、国の医療費抑制策もあり、従来にも増して厳しい改定になるものと思われまます。

本年の取り組みとしまして、病院ではICTの促進の一環として、昨年7月に電子カルテ導入を行いました。医師、職員の協力も有り、大きなトラブルもなく、運用を行っており、診療報酬改定にも対応できる状態となっております。今後は各職場に於いて効率的運用を行い、患者様、利用者様へ今まで以上に、適切な治療～退院・在宅支援が出来るよう努めてまいります。

コロナ禍での変化の一つに在宅医療、在宅ケア

を希望する方が増えたことがあります。これは病院や施設で面会が出来ない事が大きく影響していると考えられ、その弊害の多さにも気付かされました。リモート面会も導入しましたが、効果は限定的です。やはり同じ空間で顔を合わせ、会話、励まし、笑いあうなどは何ものに代えがたいものであると痛感しました。当法人としては、感染対策を講じながら、出来る限り面会をしてもらう体制を継続していききたいと思います。

また、昨年5月には「こころはす小針」居宅介護支援事業所、及びユニット型ショートステイ29床を傘下に加えました。各関連施設に於いて、利用者のニーズをしっかりと捉え『こころはす「小針」「西蒲」「亀貝」「槇尾」「五十嵐」を医療・介護・福祉各事業が地域関係機関と連携、協調して事業の安定運用を継続的に行ってまいります。更に2つの訪問看護（リハビリ）ステーションも各地域において、その存在感を発揮して、着実に実績も上げております。今後も地域の要望に応え、各地域での拡張を目指してまいります。

当該地域に於いても、人口構造変化による、医療ニーズの変化や後期高齢者の増加と少子化が急激に進む背景があります。我々としても、基本理念「地域のオアシスを目指します」に則り、立つ位置を明確に、求められる病院として、地域の方々が、安心・安全な生活ができる支援体制を目指します。

皆様にとりまして、金運に恵まれ、最良の五黄の寅年になりますことをご祈念申し上げ年頭の挨拶と致します。



Shittoku Joho 知っく・情報

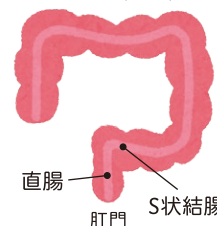
今回の
テーマ

大腸がん検診について

■ 大腸がんとは…

大腸がんとは大腸にできるがんで、特に便がたまりやすい肛門近くのS状結腸や直腸に発生しやすいことが知られています。日本では年々罹患患者数が増加していますが、早期に発見されれば予後はよく、このため早期診断・治療が重要となります。早期の段階ではほとんど自覚症状はありません。しかし、進行するにしたがって血便、便秘と下痢を繰り返す、便が細くなる、残便感、腹部膨満、腹痛、貧血、体重減少などの症状が出るようになります。

イメージ図(大腸)



早期発見のためには検診が重要です。大腸がん検診(便潜血検査)は40歳以上の健常者が対象となる検診で、早期発見のきっかけとなるため毎年定期的に検診を受けることが推奨されています。40歳以上の方が毎年大腸がん検診を受けることで大腸がんによって死亡する確率を約60-80%減らすことができるという調査報告もあります。

■ 大腸がん検診とは…



便潜血検査とは、2日分の便を採取して便に血液が混じっていないか検出する検査方法です。この検査では便に混じった目に見えない血液も検出することができます。便潜血検査が陽性になる確率は約5-10%、がんの発見率は0.10-0.15%です。これは大腸がん検診を1万人の方が受けたときに、500-1000人が便潜血反応陽性となり、そのうち10-15人が大腸がんとして診断される割合です。逆に、便潜血検査が陰性でも大腸にがんやポリープが全くないとは言い切れません。大腸がんは、その15-30%は便潜血検査が陰性となると報告されています。

■ 異常を指摘されたら…

大腸がん検診で異常を指摘された場合には内視鏡検査を行います。ただし内視鏡検査が困難な場合にはバリウム検査、CT(CTコロノグラフィー)検査を行う場合もあります。内視鏡検査で腫瘍を認めた場合には組織検査で確定診断を行い、その後CT、MRI、PET-CT検査等で広がり調べ、治療方針を決定します。



早期診断・治療が大腸がんの予後を大きく左右します。ぜひ大腸がん検診を受けてください。また症状を自覚した際には、自己判断せずに医療機関を受診することが大切です。

消化器科部長 栗田聡

イルミネーションで笑顔と癒し

当院では、毎年、冬の風物詩イルミネーションの飾りを施しています。正面玄関にあります。実は2階の屋上庭園にも、豪華なイルミネーションがあります。

入院患者様に楽しんでいただけるように、毎年徐々に豪華になっております。

今は、コロナ禍のため、多くの方に見て頂ける機会がないのが残念ですが、患者様やご家族の皆様笑顔と癒しが届けば幸いです。

